

外国語科

石川 理恵

中橋 弘高

田中 里美

研究協力者 滝沢 雄一（金沢大学）

1. Society5.0に向けた教育を進めるに当たって

本校の外国語科では、学習指導要領解説に示されている目標のうち、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」を設定し、生徒が理解し、外国語で表現し伝え合う力を育成するための学習過程の改善・充実に重点をおいて授業を進めている。

昨年度は、本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 10 の資質・能力のうち、「デザイン思考」「対話する力」「論理的思考」「イノベーターのマインドセット」「多様性の尊重」の資質・能力の育成を図った。このうち「イノベーターのマインドセット」「多様性の尊重」については、生徒の変容を把握することが難しいと感じた。そのため、今年度は、「イノベーターのマインドセット」「多様性の尊重」を生み出す場面を意識しつつ、特に「デザイン思考」「対話する力」「論理的思考」の三つを全学年共通で育成することを目指すこととした。これらの資質・能力をより効果的に育成するためには、実社会での課題解決を学習内容に取り入れた単元や題材を設定することが重要である。これは、先述の教科の目標を実現するための重点と内容が重なっており、ねらいとする資質・能力を無理なく身に付けることができると言える。しかし、現状では、授業で実社会の具体的な諸課題について考える自然な場面を十分に設定できていたとはいえないため、ねらいとなる資質・能力が十分に育成されるように、昨年度に引き続き今年度も、コミュニケーションの場面設定を工夫していくとともに、生徒が創造的に思考・判断・表現ができる場を意図的に授業に仕組んでいく。

2. 資質・能力の育成に当たって

（1）教科等として育成する資質・能力について

本校外国語科で育成を目指す「デザイン思考」「対話する力」「論理的思考」は、本校では次のように定義づけられている。「デザイン思考」は、問題解決の思考法の一つ。対象とする問題を解決するために、認識されていない内なる課題を見だし、それを解決するための最適な手立てを考えて行く思考法である。「対話する力」は、考えを広めたり、深めたりするための対話をする力であり、その対象は、他者、自分自身、ものである。「論理的思考」は、根拠を定め、前提と結論が整合的（無矛盾）であるかを問い続ける思考法である。これらの資質・能力を、各学年のどの単元でどのような課題設定をすることで効果的に育むことができるかを検討することとした。

外国語科で育成する教科の資質・能力は、1時間の授業や一つの単元だけでは身に付かず、体系的かつ継続的な指導が必要である。この考えの下、近年、三年間を通した即興での対話活動と発表活動を重視して取り組んでいる。詳細は、昨年度の本校外国語科の紀要資料に記載してある。

本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質能力と英語の資質・能力の実態を把握するため、年度当初（1年生は8月）に、3学年一斉にアンケート調査を実施した。これは、昨年度までの生徒の英語学習に対する意識調査で、結果は、次の表の通りである。

表 英語の学習アンケート調査（2021）「（とても）そう思う」「まあまあそう思う」と答えた生徒の割合

質問項目	1 年生 8 月	2 年生 5 月	3 年生 4 月
① 英語の授業で学習したことは将来役に立つ	97%（82%）	94%（82%）	96%（85%）
② 英語の授業でやり取り（対話）する力がついた	90%（40%）	88%（41%）	92%（52%）
③ 英語の授業で発表する力がついた	88%（41%）	87%（30%）	90%（43%）
④ 英語で新しいことに挑戦したり提案・企画したりしてみたい	88%	76%	75%

（ ）内：「（とても）そう思う」と答えた生徒の割合

表の質問項目①より、英語の授業の学習内容が実社会とつながっていると感じている生徒の割合が高いことが分かる。実際に、普段の授業の様子や作品などの成果物から、生徒が実社会との結びつきを意識して課題に取り組んでいる様子を見ることができる。質問項目②③は、本校が定める資質・能力の中では「対話する力」に関連している。授業での対話活動や発表活動などで、生徒は日頃から英語で質問し合うことで互いに考えを広めたり深めたりしており、このことから、話すこと〔やり取り〕〔発表〕の力の実感につながっているようである。

質問項目④は、本校が定める資質・能力の中で「デザイン思考」に関連しており、英語を実社会で活用しようとする態度が養われているかを把握できる。本校の生徒は、互いの意見の違いを尊重し、自らの意見や考えを堂々と伝えることができる。しかし、昨年度同様、質問項目①～③に比べて質問項目④の数値が低いのは、コロナ禍ということもあり、新しいことに挑戦したり提案・企画したりすることに難しさを感じる生徒がいることが窺える。すなわち、本校の生徒には新しいことに挑戦することや、失敗しても前進しようとする点に課題があると考えられる。今年度実施するプロジェクト等を通して、こうした態度の育成を図っていく。

（２）関連・連携を図った教科等について

1 年「冬休み中に見られるオススメ映画を紹介しよう」

自分が好きなものを級友に薦めることは、日常生活でよくあるため、1 年生の国語科で学習し、実践している「話の構成を工夫しよう」「情報を的確に聞き取る」力を活用した。そうすることで、聞き手に伝えるべき情報（＝事実）と、話し手の気持ち（＝感想）をさらに端的に伝えることができる。本当に伝えるべき情報は何かを考えさせることは、「思考→判断→表現」のプロセスを踏む論理的思考に繋がると考えた。

2 年「オンライン旅行を計画している中学生におすすめの行き先を提案しよう」

県の機関が行ったアンケートの結果から顧客のニーズをつかみ、それを基にアイデアを創出する学習活動である。その際に、創造デザイン科の授業で行う、3 年生の数学科で学ぶ「標本調査」や「全数調査」の知識を活用し、論理的に思考し、旅行の企画を提案することにした。

3 年「俳句の魅力を T シャツで外国人にアピールしよう」

外国人が日本語の T シャツを着ていることがあるが、中には首をかしげたくなるものもある。誰にとっても「かわいい」と思える T シャツを生徒たちが作成して、外国人に日本文化の一つである俳句をアピールするプロジェクトを考案した。まず国語科の「外国人に紹介したい俳句の世界」で紹介する俳句を選び、数学科の「標本調査」で留学生の実態を把握する。その後、美術科の「T シャツ文字のデザイン」でデザインを考えて、実際に留学生を前に英語で発表することにした。

1 年 単元名「Lesson 5 School Life in the U.S.A.」(NEW CROWN English Series 1)

プロジェクト名「冬休みに見てほしいオススメ映画を紹介しよう」単元計画（15時間扱い）本時は14時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3 観点【】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を 主体的に生きるための資 質・能力
1	1	■附属中との学校生活の違いを見つける。 ①資料映像を見て、アメリカの学校生活を知る。 ②生活面における、附属中学校との違いを捉える。	・視覚教材、教師からの補足、本文の順で難易度を上げ、情報を探せるように促す。	
	2	■写真の人物がしていることを伝える。 ①本文を音読し、現在進行形を学習する。	・文法構造と意味の理解を理解させるため、言語材料と使用場面を照らし合わせる。	
	3	■附属中との昼食の時間の過ごし方の違いを見つける。 ①資料映像を見て、アメリカの学校の昼食風景を知る。 ②昼食時間における、附属中学校との違いを捉える。	・視覚教材、教師からの補足、本文の順で難易度を上げ、情報を探せるように促す。	
	4	■ある人物の行動について尋ねたり答えたりする。 ①登場人物当てゲームを、ペアで行う。 ②附属中の昼食時間の様子について、紹介する。	・文法構造と意味を理解させるため、言語材料と使用場面を照らし合わせる。	
	5	■リサとケビンの放課後の様子を読む。 ①資料映像を見て、アメリカの中学生の放課後の過ごし方を知る。 ②本文を読み、概要を捉える。	○状況に応じて使用される言語材料を区別して理解することができる。【知】 ・視覚教材、教師からの補足、本文の順で難易度を上げ、情報を探せるように促す。	
	6	■リサのメールに返信する。 ①内容の構成を考える。 ②自分と友達の2人分の放課後の過ごし方について書く。	・本文を使用し、主語が変わった時の動詞等の変化を復習する。 ・メールの書式に気づかせる。	
	7	■日本の学校についての紹介文を読む。 ①それぞれの場面で使用されている言語材料を確認する。 ②読み手に伝えたいことを考え、トピックと情報を選ぶ。	・読み手にとって分かりやすい話の順序に気づかせる。 ・書き手の意図を予想させる。	
	8	■附属中学校生活を紹介するメールを書く。 ①読み手にとって分かりやすい話の順序を考える。 ②選んだトピックについての情報を整理し、書く。	○読み手に伝えるべき情報を整理し、場面設定に応じた言語材料を選択して書くことができる【思】	「論理的思考」
2	9	■映画の予告編を聞き、概要を聞き取る。 ①ブレイク・シングを行い、映画に関係する語句を予想する。 ②タブレット端末を使用し、概要を捉える。	・スクリプトを活用して音読練習も行うことで、リスニング力の向上に繋げる。BONUS STAGE も行う。	
	10	■聞き手が見たくなるオススメ映画の紹介方法を考える。 ①聞き手にとって分かりやすい話の順序を考える。 ②制限時間内に収まるように材料を取捨選択する。	○聞き手に伝わる表現方法を工夫したり、伝える情報を整理したりして書くことができる。【思】	
	11	■相手に提案したり、自分の好みを伝えたりする。 ①提案する表現、好みを伝える表現を学ぶ。 ②ペアでオリジナルストーリーを作成し、レコーダーに録音する。	・平坦なやりとりにならないように背景を追加し、希望通りの商品を買うまでのやりとりを考えさせる。	「対話する力」
	12	■持ち主を尋ねたり答えたりする表現を学習する。 ①落とし物の持ち主を探す会話を想像して書く。	○多様な表現を用いて、日常的な情景を想像し、オリジナルストーリーを書ける。【思】	「論理的思考」
	13	■オススメ映画を紹介する(1) ①タブレット端末で画像を提示し、映画を紹介する。 ②級友からの質問に答える。	○聞き手が理解できる表現方法で話すことができる。【思】 ○発表を続けようとしている。【態】	「デザイン思考」 「対話する力」
	14 本時	■オススメ映画を紹介する(2) ①タブレット端末で画像を提示し、映画を紹介する。 ②級友からの質問に答える。 ③見たくなった映画の発表者に向けて英語でコメントを書く。		「デザイン思考」 「対話する力」
	15 後日	■オススメ映画の宣伝ポスターを作成する。 ①発表した内容をまとめ、ポスターに仕上げる。	○読み手に伝わる構成を考えながら、宣伝ポスターを書くことができる。【思】	「デザイン思考」

実践事例

教科名「英語科」・学年「1年」

授業者	石川 理恵	授業日	11月16日(火)	授業クラス	1年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容			
冬休み中に見てほしいオススメ映画を紹介しよう		国語科「話の構成を工夫しよう」 「情報を的確に聞き取る」			
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力			
「デザイン思考」 「対話する力」		聞き手が求める情報を、聞き手に伝わる英語を用いて話すことができる。 話し手から、さらに聞きたい情報を得るためにどのような英語表現が適切かを考え、英語で尋ねることができる。【思考・判断・表現】			
STEAM教育の視点					
国語科の『話の構成を工夫しよう』では、聞き手にとってわかりやすい話の順序を考えたり、制限時間内に収まりように材料を取捨選択したりすることを学習している。英語科のスピーチでも、聞き手が求める情報を整理して伝えること、そして聞き手に伝わりやすい表現方法を用いることが重要であると考え、原稿作成の段階からこの学習内容を取り入れる。また、発表当日に向けて、何度も練習と訂正を重ねたり、互いにアドバイスをしたりして、徐々に上達していけるプロセスを踏んでいく。 コロナ禍で人との関わり方に変化が生じているが、人が好むものや求めるものに変化はない。そのため、興味のあることや好きなことについて人と話すことは、実社会でもよりよい人間関係を持続的に構築していけるツールとして重要だと言える。					
本時の授業のねらい					
クラスメイトを対象とすることで、相手が理解できる英語表現を適切に選択することが求められる。聞き手が理解できる表現を用いて、自分の好きな映画について話すことを重点とする。					
授業の流れ・活動等					時間
1 前時の復習 ・前時の復習と、本時の活動内容の確認をする。 ・発表後に相互評価を行うことを伝え、適宜メモを取っておくことを伝える。 課題 冬休み中に見てほしいオススメ映画を紹介しよう					2
2 発表 ・各自が準備したタブレット端末の画像をスクリーンに映し出ししながら、オススメの映画を紹介する。 ・話し手は聞き手の反応を確認し、聞き手とやり取りをしながら、聞き手に伝えたい情報を確実に伝えていく。					40
3 振り返り ・伝えたい情報が確実に伝わったかをペア（またはやグループ）で評価し合い、自己評価を行う。					3
4 相互評価 ・前回と今回で紹介された映画の中から、観たくなった映画を合計10作品まで選び、英語でコメントを書き、発表者に渡す。					4
5 次時の確認 ・宣伝ポスターを作成する予定を伝える。					1

2年 単元名「Lesson 5 Things to Do in Japan」(NEW CROWN English Series 2)

プロジェクト名「オンライン旅行を計画している中学生におすすめの旅行プランを提案しよう」

単元計画（11時間扱い）本時は9時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を 主体的に生きるための資 質・能力
1	1	■居住地の人口や面積などについて表現し合う。 ①データを引用するための英語表現を学ぶ。 （According to, The table shows...など） ②居住地の基本情報についてペアで話す。	・知識として知っていることであっても，データに基づいて話す習慣づけを行う。	
	2	■前時で表現し合った内容を広げる。 ①比較表現を用いて前時で行ったやり取りの内容を別のペアで伝え合う。 ②伝え合った内容を英文で書く。	・比較を通して居住地の魅力を表現する機会を設ける。	
	3	■国や都市の面積について書かれた教科書の対話文を読み，登場人物がこの後どんなやり取りをするかななどを伝え合う。 ①教科書の対話文を読み，登場人物のやり取りについてペアで伝え合う。 ②対話文で使われている新出語句の語の意味や比較級の構造と意味を理解する。	・前時までに学習した言語材料が実際に使われている場面に触れ，構造と意味の理解を進める。	
	4	■アンケート調査の結果について書かれた教科書の対話文を読み，登場人物がこの後どんなやり取りをするかななどを伝え合う。 ①教科書の対話文を読み，登場人物のやり取りについてペアで伝え合う。 ②対話文で使われている新出語句の意味や比較級の構造と意味を理解する。	・設定した単元の目標の達成状況と単元末での活動の見通しを持たせることで，意欲付けを図る。	
	5	■アンケートの調査結果について書かれた教科書の英文を読み，考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①教科書の文章を読み，内容についてペアで伝え合う。 ②文章で使われている新出語句の意味や比較表現の構造と意味を理解する。	・英文の内容を踏まえ，歓迎を受ける立場の生徒のニーズを受けてどんな活動が提案できるか考え，ペアでの対話活動で内容を深める機会を設ける。	
	6	■旅行先でしたことやその感想について書かれた教科書の英文を読み，その要点を捉える。 ①教科書の文章を読み，その概要に関する質問に答える。 ②文章で使われている新出語句の意味や比較表現の構造と意味を理解する。	・単元末の活動で使用することが予測される表現が実際に使われている場面に触れることで，表現の幅を広げる機会を設ける。	

	7	■旅行先でしたことやその感想について書かれた教科書の文章を読み、考えたことなどを伝え合う。 ①教科書の文章を読み、内容について考えたことをペアで伝え合う。 ②文章で使われている新出語句の意味や比較表現の構造と意味を理解する。	・英文の内容を踏まえ、歓迎を受ける生徒の感想からどんな活動が提案できるか考え、ペアでの対話活動で内容を深める機会を設ける。	
	8	■イベントの紹介場面設定でロールプレイをする中で、人を誘うときにに使われる表現に触れる。 ①教科書の文章を聞き、内容について考えたことをペアで伝え合う。 ②文章で使われている既習の表現の構造と意味を再確認する。	・前年度に行ったプロジェクト活動の内容を踏まえ、人を誘う場面で用いられる表現をペアでの対話活動で実際に使う機会を設ける。	
	9 本 時	■おすすめの旅行先について事実や自分の考えを整理し、スライドに企画をまとめる。 ①顧客視点で旅行先について、事実や考えをまとめる。 ②統計を用いて説得力のある企画にする。	○県外の中学生に「行ってみたい」と思ってもらえるように、おすすめの行き先について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて提案している。【思】	「対話する力」 「論理的思考」
	10	■さらなる対話を経て、スライドを完成する。 ①文章で使われている語彙を簡単なものにするなど、表現に工夫を凝らす。	・相手意識を持ち、伝わりやすい表現を心がけるために、既習語彙を用いる。	「対話する力」 「論理的思考」
	11	■スライドを示しつつ、プレゼンテーションを行う。 ①一人一人が級友を県外の中学生に見立てておすすめの旅行先を説明する。 ②英文の説得力や、表現の工夫に焦点を当てて発表を聞く。	○県外の中学生に「行ってみたい」と思ってもらえるように、おすすめの行き先について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある英文で話している。【思】	
	後 日	■パフォーマンステスト ①単元テストで言語材料の習得を確認する。	○おすすめの旅行先について提案するために、学校間交流について書かれた英文を読み取る技能を身に付けている。【知】 ○おすすめの旅行先について提案するために、学校間交流について書かれた英文を読んで、その要点を捉えている。【思】	

実践事例

教科名「英語科」・学年「2年」

授業者	中橋 弘高	授業クラス	2年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
ウィズコロナ時代の中、オンライン旅行を計画している中学生におすすめの行き先を提案しよう		創造デザイン科（数学科） 「データの活用」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「対話する力」 「論理的思考」		県外の中学生に「行ってみたい」と思ってもらえるように、おすすめの行き先について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて提案している。【思考・判断・表現】	
STEAM教育の視点			
実社会での課題解決を取り入れた学習内容として、ウィズコロナ時代のオンライン旅行を企画する活動を行う。新型コロナウイルスの蔓延によって行動が制限される中でも、顧客のニーズを探り、サービスとして実現化する場面設定を通して、前例のない問題や未知の課題に対し、最もふさわしい方策を論理的に考えながら課題解決力を養うことができると考えた。 上記の課題に対して、数学科の標本調査の考え方から、統計的な情報を的確に活用し、その解決に向かうプロジェクトとする。			
本時の授業のねらい			
事実と自らの考えを、統計に基づいてまとめ、旅行者に賛同を得られるスライドを作成する。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 前時までの復習 ・前単元の週末で行った、行きたい国に関するスピーチ活動について復習をする。 ・学習ゴールを確認する。 課題 石川県への旅行を計画している中学生に「行ってみたい」と思ってもらえるように、おすすめの行き先について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて提案しよう。			5
2. 個人でのブレインストーミング ・本時まで案を練った候補地と県の観光統計とを照合し、おすすめの行き先を1カ所とそのセールスポイントを3点に絞る。 ・顧客視点からアイデアを練る。			15
3. 対話① ・考案した企画についてペアで対話をする。 ・対話の結果、内容や表現など必要な情報があればマッピングに付け加える。			5
4. 内容の再構築 ・県公式ウェブサイト中の「石川の見どころ」に関する英文を読む。観光地の見どころに注意を向けて読む。 ・読んだ英文の中から、使えそうな表現を参考にする。 ・内容や表現などの参考になる情報をマッピングに付け加える。			15
5. 対話② ・再考したマッピングを基に、ペアを変えて伝え合う。 ・対話の結果、必要に応じてマッピングを修正する。			5
6. 振り返り ・本時の振り返りを書く。			5

3年 単元名「Project 2」(NEW CROWN English Series 3)

プロジェクト名「俳句の魅力を T シャツで外国人にアピールしよう」単元計画（7 時間扱い）本時は 6 時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3 観点【 】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 資質・能力
1	1	■T シャツプロジェクトの目的を理解する。 ①金沢大学の留学生に、俳句の魅力を英語で紹介することを伝える。 ②実際に T シャツを注文する企業の CM 等についてやり取りする。 ③留学生への質問と選択肢（4 択）を考える。	・生徒から出た質問を 20 にまとめて、金沢大学の全留学生にアンケート作成ソフトでの回答を依頼する。	
	2	■来校する留学生に、プロジェクト発表会の招待状を書く。 ①招待状の書き方例や表現を知る。 ②プロジェクトの発表会に協力してくれる留学生宛に招待状を書く。	○プロジェクトの意義や詳細を招待状で分かりやすく伝えている。【知】	
	3	■論理的な発表になるように、発表準備をする。 ①ペアで発表する英語について話し合う。 ②発表する英語について ALT からアドバイスをもらう。	○伝わりやすい構成や話し方になるよう工夫できている。【思】 ・他の教科（国語、数学、美術）に関わる内容を入れるよう伝える。	「論理的思考」
	4	■分かりやすい発表になるように発表スライドを作り、発表練習をする。 ①発表用スライドをプレゼンテーションソフトで作成する。	・事前に回収した留学生（計 73 名）からのアンケートの結果やグラフを活用するよう伝える。	「論理的思考」
	5	■ALT に、俳句の魅力を T シャツで論理的に発表する。（パフォーマンステスト） ①ペアで全員が発表し、ALT からの即興の質問に答える。	○ALT にわかりやすく発表しようとしている。【態】 ・アンケート作成ソフトによる相互評価の結果を伝える。	「対話する力」 「論理的思考」
	6 本 時	■金沢大学の留学生に、俳句の魅力を T シャツで論理的に発表する。 ①司会や挨拶は生徒が行い、留学生を歓迎する気持ちを伝える。 ②留学生から発表の感想を聞き、即興での質問に答える。 ③クラスのベストを留学生に決めてもらう。	○留学生からの質問や感想を聞き取ろうとしている。【態】 ・留学生と英語でやり取りする時間を確保するため、発表以外に司会や挨拶、案内なども生徒たちでできるよう支援する。	「対話する力」 「論理的思考」
	7	■プロジェクトの発表を映像で振り返る。 ①他クラスのベストと自分たちの T シャツプロジェクトの発表映像を視聴する。 ②映像で気づいたことを意見交換する。	・映像を視聴することで、次回の発表への意欲につながるように声掛けする。	
	後 日	ベストに選ばれたものから、留学生全員にアンケート作成ソフトで投票してもらう。	・投票により選ばれた T シャツの写真等を掲示する。	

実践事例

教科名「英語科」・学年「３年」

授業者	田中 里美	授業クラス	3年1組～4組
プロジェクト名		教科等横断を図る教科等名と内容	
俳句の魅力をTシャツで外国人にアピールしよう		国語科「外国人に紹介したい俳句の世界」 数学科「標本調査」 美術科「Tシャツ文字のデザイン」	
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力		教科等で身に付けたい資質・能力	
「対話する力」 「論理的思考」		留学生に俳句の魅力が伝わるように、自分の言葉で整理して英語で論理的に発表できている。 【思考・判断・表現】 留学生からの質問や感想を聞き取ろうとしている。 【主体的に取り組む態度】	
STEAM教育の視点			
現実社会で、外国人が日本語のTシャツを着ているのを目にする。日本人にも、外国人にも「かっこいい(How cool)!!」と思われるようなオリジナルのTシャツプロジェクトを考案した。 国語科で、留学生に紹介したい俳句をグループで選び鑑賞文を書いた。金沢大学の留学生から実際に回収した英語によるアンケート結果を基に、数学科で俳句の認知度やTシャツの嗜好等を推察し、紹介する俳句をペアで再考した後、美術科で調査を踏まえたTシャツのデザイン等を創作し、県内の企業にTシャツを注文した。英語科では、留学生の実態をアンケートで把握した上で、話す相手を意識して論理的に英語で発表する技能を育成する。			
本時の授業のねらい			
留学生から回収したアンケートを基に、俳句の魅力が伝わるように論理的に英語で発表する。			
授業の流れ・活動等			時間
1. 留学生の自己紹介 ・案内係の生徒が教室まで留学生を案内する。 ・生徒が授業の司会や歓迎のあいさつをする。 ・留学生の名前を紹介した後、留学生が順に自己紹介する。			7
2. 即興対話活動（帯活動） ・ペアで2分間即興対話をする。 ・4人の生徒が留学生と対話をする。			3
3. 課題の確認 課題 俳句の魅力をTシャツで論理的に留学生にアピールしよう			1
4. 発表と質疑応答 ・前日の発表で、生徒による投票で選ばれたペアが発表する。 ・留学生からの感想を聞き、即興の質問に答える。			30
5. 審査結果の発表と感想 ・留学生同士が相談して、一番いいと感じた発表を三つ選んでもらう。 ・司会の生徒が審査の結果を発表する。 ・留学生に全体の感想を述べてもらう。			6
6. 感謝の言葉 ・生徒が英語でお礼のあいさつをする。 ・留学生を拍手で見送る。 ・案内係の生徒が控室まで案内する。			2
7. 振り返り ・本時の授業を振り返り、各自カードに振り返りを書く。			1